

白井大師 第1番 神々廻・神宮寺

- 1 名称 (No.001) 〔大11：神宮寺〕〔昭63：神宮寺〕〔平08：神宮寺〕〔平17：神宮寺〕
- 2 場所 白井市神々廻1192 神宮寺
 十余一・阿弥陀堂から道程約2,710m
 神々廻・薬師堂跡から道程約330m
 谷田・西福寺から道程約2,940m
 GPS座標 35.798777491018065, 140.0754453940613
- 3 由緒 天台宗 龍光院 神宮寺
 神々廻村字花発込にあり 天台宗延暦寺派にして小本寺泉倉寺末なり 阿弥陀如来を本尊とす
 由緒不詳 檀徒420人 (印旛郡誌)
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体あり。
- 5 境内 大師堂のまわりは本堂や観音様、たくさんの石造物や木々がある。印西大師第27番。
- 6 写真 (2019.07、2023.10撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



本堂と観音様



御大師様



白井市組合大師講解散記念碑



境内



本堂と観音堂



境内

7 情報

(1) 四国八十八ヶ所 第1番 霊山寺 御詠歌

霊山の 釈迦の御前に 巡り来て 万の罪も 消え失せにけり
 高野山真言宗 竺和山(じくわざん) 一乗院 霊山寺(りょうぜんじ)
 本尊 釈迦如来 (徳島県鳴門市)

(2) 白井市組合大師講解散記念碑 (白井市郷土史の会「たいわ」No.37から)

白井大師は白井市域にある札所を巡拝するミニチュア版四国八十八ヶ所巡礼の一つであったが、平成17(2005)年10月1日(土)・2日(日)の巡拝を最後に講が解散した。(中略)講の解散に際して平成17(2005)年10月に造立された2基の記念碑について触れる。

1基は神々廻地区の神宮寺境内にある「白井市組合大師講解散記念碑」(右写真)で、平成17(2005)年最後の巡拝時の結願式後に除幕されている。表面には「白井市組合大師講解散記念碑 (梵字)弘法大師南無大師遍照金剛 平成十七年十月吉日」と刻まれ、裏面には



白井市組合大師講は明治三十七年(1904年)神々廻地区が元村として新四国霊場大師巡礼が開創され戦勝祈願、五穀豊穰、家内安全等を祈願しながら宗派にかかわらず二十一地区に札所を置き二日間で二十八kmの行程を巡礼する。結願には先頭に露払い、法螺貝吹き、金棒付き、稚児、先達、巡礼者と続き花火を打ち上げ盛大に行われた。併し時代の変遷により組合の維持が難しくなり百年の伝統を終わりにすることになりました。此処に巡礼者一同記念碑を建て後世に伝えます。

合掌神々廻白井下長殿七次富塚中 平成十七年十月吉日 組合員一同

と刻まれている。(高花宏行「白井市組合大師旧蔵資料から見た白井大師の概要」(白井市郷土史の会「たいわ」2022.03.31発行 No.37)

印旛郡誌によれば、神宮寺は、檀徒420人を数えるほどの豊かなお寺です。天台宗にもかかわらず白井大師講の中心となっていました。しかし現在は無住で、折立の来迎寺住職が兼務しているようです。無住とはいえ境内はよく手入れがされているので檀家の方々が清掃作業をされているのでしょう。

(3) 印西大師と白井大師 (2009.03.15「広報しろい」)

(白井大師は)1904年(明治37年)神々廻の神宮寺を核に白井谷清村組合大師として開かれたものです。記録には「白井村小廻大師」ともあり、平塚を除く市内21地区が参加して4月・9月に26の札所を巡っていました。

白井大師も昔は旗や御影を重視していましたが、戦後になって送り大師の形式や稚児行列など、東葛・印旛大師風の要素を取り込みました。近年は10月最初の連休に実施されてきましたが、ニュータウンによる集落分断やさまざまな負担で参加は5地区に減少し、2005年(平成17年)を最後に休止しています。(2009.03.15「広報しろい」より)